

PRESS RELEASE  
報道関係各位

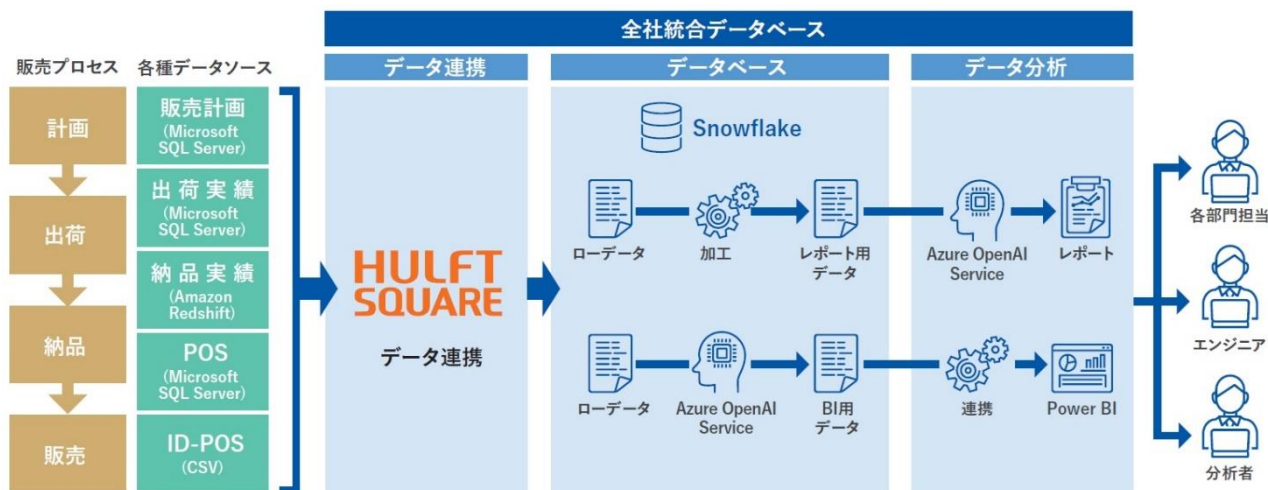
2025年1月29日  
株式会社セゾンテクノロジー

## 日清食品ホールディングスがデータ連携/分析基盤の構築に セゾンテクノロジーの「HULFT Square」を活用

～全社統合データベースと生成 AI を連携し分析の自動化・高度化を推進～

株式会社セゾンテクノロジー（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：葉山 誠、以下セゾンテクノロジー）は、日清食品ホールディングス株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長・CEO：安藤宏基、以下日清食品ホールディングス）のデータ連携/分析基盤の構築に、「HULFT Square」が活用され、生成 AI による全社統合データベースの分析を導入支援したことを発表します。

ビジネスプロセス毎に散在していたデータを「HULFT Square」経由で「Snowflake」に集約し、全社で汎用的に利用可能なデータ連携/分析基盤を構築することで、日清食品ホールディングスのデータ統合戦略の実現と、生成 AI とデータを組み合わせたデータドリブン経営を推し進めています。



「全社統合データベース」となるデータ連携・分析基盤と生成 AI 活用の構成図

### 背景

日清食品ホールディングスでは、2019年に全社スローガン「DIGITIZE YOUR ARMS（デジタルを武装せよ）」を掲げ、2030年に向けた中長期成長戦略、経営上のリスク、革新的なIT技術の進展などを踏まえ、積極的なデジタル活用による作業工数の削減とデータドリブンの推進に取り組んでいます。

生産性 200%と業務の質の付加価値を高めるべく、5つの強化施策として「サイバーセキュリティ」「グローバル IT ガバナンス」「現場部門主導のデジタル活用」「先進ネットワーク/モバイルデバイスの活用」「データドリブン”経営に寄与する基盤の整備”を推進しています。

その施策の1つである「データドリブン”経営に寄与する基盤の整備”では、従来の勘と経験から脱却し、データをもとにシステムで分析・検証して判断やアクションを行える体制を作るため、2025年までに社内の膨大なデータを扱い、信頼性が高く柔軟性のあるデータ連携/分析基盤の構築を目指しています。

### 「HULFT Square」採用の理由

これまで、日清食品ホールディングスでは、商品の生産や計画段階、出荷・納品・販売まで、RDB、ERP、DWH、表計算などプロセスごとにさまざまな形で、クラウドやオンプレミスにデータが散在していました。

これらのデータを集約し、活用できる環境を整備するため、データ連携/分析基盤の構築に向けたデータ連携プラットフォームの選定を進めました。「HULFT Square」は連携先の豊富さに加え、すでに利用しているファイル連携ミドルウェア「HULFT」との接続性や運用の実績、また、セゾンテクノロジーはデータ連携の実績や知見が豊富であったことなどが評価され、導入を決定しました。

「HULFT Square」を導入した理由として、日清食品ホールディングスは次の点をあげています。

- 豊富なコネクタによりさまざまな社内システムのデータを「Snowflake」に集約可能
- 直感的な UI によるノーコード開発で自社内におけるデータ連携部分の開発が容易
- 「HULFT」との接続性や、今後導入するツールおよび既存データなどともデータ連携の親和性が高く拡張も可能

### 全社統合データベースと生成 AI の活用

さらに日清食品ホールディングスは、全社統合データベースと生成 AI を組み合わせ、データ分析レポートの自動作成や、BI ツールとも連携し自然言語でデータの解釈ができるよう、分析の自動化・高度化にセゾンテクノロジーと共同で取り組みました。

この社内データの参照や分析には技術的な支援としてセゾンテクノロジーが伴走し、自社で全社員がデータを活用し業務改善する基盤として構築した「データ ドリブン プラットフォーム」と、生成 AI や RAG\*1 を活用して得た知見が生かされました。この技術支援には、セゾンテクノロジーのエンジニアを中心とした生成 AI 活用推進組織の主要メンバーが携わっています。

### 導入の効果

日清食品ホールディングスでは、全社統合データベースの導入によりデータのサイロ化が解消され、分析を行うためのデータ連携に係る時間が従来と比べ約 60%削減されました。また、生成 AI との連携により、分析レポートの自動生成や BI ツールへの組み込みも進めており、共有データによる組織間の円滑なコミュニケーションや新たなコラボレーションも生まれています。

今後は生成 AI を最大限活用し、分析の工数削減や精度の向上に向けたデータ整備、BI ツールによるデータの可視化に取り組み、データの探索・分析からインサイト発掘の支援まで、データの価値を最大限引き出す分析基盤を目指す予定です。

なお、「HULFT Square」を活用した日清食品ホールディングス様の導入事例は次の URL をご参照ください。

- ・生成 AI を活用し“データドリブン”経営に寄与するデータ連携・分析基盤を整備  
豊富なコネクターでデータ連携の拡張性を確保する HULFT Square  
<https://www.hulft.com/casestudies/nissinfoods-holdings>

\*1 RAG (Retrieval-Augmented Generation) : 検索拡張生成とも呼ばれ、大規模言語モデル (LLM) に新たに外部の情報を組み合わせ、生成 AI の検索精度を向上させる技術

\* \* \*

## HULFT Square について

「HULFT Square」は、DX 実現に必要な「データ活用するためのデータ準備」や「業務システムをつなぐデータ連携」を支援する日本発 iPaaS (クラウド型データ連携プラットフォーム) です。オンプレミス・クラウド・SaaS などの環境に分散し管理されているさまざまなデータを、業務システム間、業種・国・地域をまたぎデータを連携させることができます。さらに、このデータ連携を実現させるために「HULFT Square プラットフォーム構想」を立て、「Sustainability」「Vertical」「Horizontal」「Multi Network」「Open Data」「Global」の 6 つのカテゴリに関わるデータ連携を、パートナー様との協業やセゾンテクノロジー独自のサービスと組み合わせることにより実現していきます。

## セゾンテクノロジーについて

「世界中のデータをつなぎ、誰もがデータを活用できる社会を作る」をミッションに、安全・安心の基盤となるデータ連携製品や IT サービス、金融や流通業をはじめとする多種多様な業種向けのシステム開発・運用をグローバルに展開しています。長年にわたり環境の変化に即応してきた強みを活かし、現在はクラウド型データ連携プラットフォーム (iPaaS) 「HULFT Square」など先進事業の拡大に注力するほか、未来を切り拓くテクノロジーの実装に向けた取り組みを強化しています。

- ・ セゾンテクノロジー : <https://www.saison-technology.com/>
- ・ HULFT 製品サイト : <https://www.hulft.com/>

## 商標関連

- ・ その他の会社名、製品名、サービス名等は、各社の登録商標または商標です。

**報道関係者様からのお問い合わせ先**

株式会社セゾンテクノロジー

広報担当：山下

PR@saison-technology.com（広報代表）